

事例

2-2)-24 徒弟での技術伝承が必要な業界で感謝の心を教育

業種

建設業

規模

100人以下

- J社は電気工事全般を取り扱っており、社員は営業・設計・施工・管理までトータルで担当する。
- 電気工事業はいわゆる職人の世界で、先輩の仕事を横で見ながら技術を身につけるというスタイルが一般的であった。しかし、近年のIT化の流れの中、CAD等のITリテラシを専門学校で習得して入社てくるケースも増え、J社の中堅社員の中にも先輩から教えてもらっていないという人が出てきた。各自は自分の持ち場で責任を持って仕事をするが、自分の現場が終われば終わりというドライな部分が出てくる。未経験で入社てくる元フリーター社員に対して、「なぜ自分が教えないなければならないのか。」という態度をとる中堅社員もいたと言う。
- そこで、人事担当者である取締役は、「先輩に気に入られるにはどうしたらいいか。技術のない自分でも手伝えることは何か。」を徹底的に考えるよう、元フリーター社員を教育している。
- その結果、元フリーター社員達は自発的に先輩社員達の帰りを待つようになった。例えば、夕方、各工事現場から会社に戻ってくる先輩社員達の労をねぎらい、自分が出来る事を率先して行っている。他の現場の人の荷物を率先して下ろす等、力仕事を買って出ている。
- 先輩に技術を教えてもらったお礼として、感謝の気持ちを態度で示す。業界未経験の元フリーター社員の入社によって、徒弟文化の良さがJ社に戻ってきている。